

いじめ虐待等対応支援体制構築事業について

趣旨

○大阪府教育庁から、学校や市町村教育委員会からの支援要請をもとに、専門家から構成される府の緊急支援チームの派遣を行う。

※緊急支援チーム…スクールロイヤー、スクールカウンセラー等

○各学校においては、いじめ等の生徒指導上の諸課題への対応について、問題行動の起こりにくい生徒指導体制の構築を行う。また、いじめ重大事態等をはじめとする事案の重篤化を防止する学校の生徒指導体制を構築する。

事業実施校

第三中学校、西南小学校、萱野東小学校、豊川南小学校の計4校

- ・小学校にはSSWサポーター、中学校には常勤講師1名の加配
- ・いじめ、暴力行為、不登校の件数を毎月集約する。

活用方法

- ・非常勤講師(第三中学校)…生徒指導担当と共に生指案件への対応、また別室登校体制のコーディネーターとする。
- ・SSWサポーター(西南小学校、萱野東小学校、豊川南小学校)…落ち着きのない児童や不登校児童等へのサポートやケース会議等へ参加する(週に3回まで、1回の勤務が3時間まで)。

各校のとりくみ

第三中学校

- ・毎学期生徒全員を対象に教育相談を実施。
- ・6月中旬時点で感じている課題…飛沫防止のため、必要以上に話さないように指導している。そのため、コミュニケーションが不足し、人間関係を築きにくい生徒がいる。特に、転入生は友だちが作りにくく、登校渋りが見られる生徒がいる。

西南小学校

- ・気になる児童を一覧にし、臨時休校中の電話連絡での反応、出欠状況がすぐにわかるようにしている。
- ・6月中旬時点で感じている課題…細かくていねいに子どもたちの様子をみているが、学校が再開した時にどのような事案が起きてくるのかが心配。今は人数が少ないので起きないが、児童間トラブルが起きた際には、迅速に対応していく。

萱野東小学校

- ・生徒指導担当、SSW サポーターが連携して動いている。
- ・6月中旬時点で感じている課題・・・2日に1回の分散登校では、家で何かあってもすぐに担任の先生に言えない。虐待事案など、きちんと察知できているのかが心配。家庭学習プリントを確実にこなしている子はとても少なく、さらに学力差がつくのでは。2ヶ月以上に及ぶ臨時休校で、生活リズムが乱れた児童が多い。通常再開になった時に、毎日6時間授業を受けることがかなり負担に感じる児童もいるように感じている。

豊川南小学校

- ・生徒指導に関する教職員研修を年度当初に実施し、学校全体で生指案件の対応の仕方を共有している。
- ・6月中旬時点で感じている課題・・・9人からの分散登校はよかった。トラブルも少なく、子どもたちは過ごしやすそうな一面もあった。要対協の台帳に名前があがっている家庭は2ヶ月以上に及ぶ臨時休校はしんどそうだった。通常再開後もていねいな対応をしていく。